

森林整備課

- 新規評価箇所検討一覧表（BBB 評価以上）
…P1
- 新規事業概要
 - ・ 治山事業 …P2
- 公共事業新規評価調書（整備系） …P4

治山事業

農林水産部 森林整備課

1

治山事業とは...

事業の目的

- 森林の維持造成を通じて山地で起こる災害から住民の生命・財産を守るとともに、水源かん養や生活環境の保全・形成等を図る。

事業の内容

- 山腹崩壊地や不安定に土石が堆積した荒廃溪流地等の復旧整備。

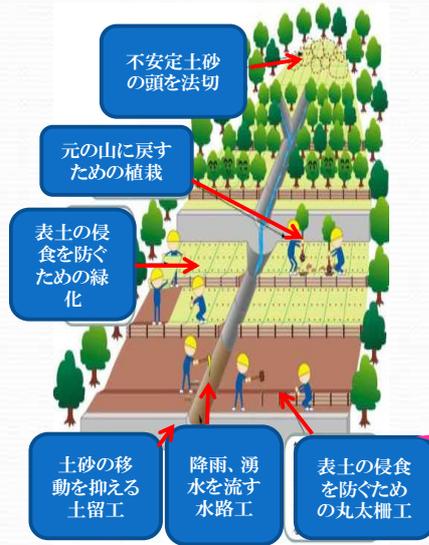
2

治山事業の主な工法

山腹工

【山腹斜面の安定化】

- ・土留工や水路工等の設置
- ・樹木の植栽



溪間工

【荒廃溪流の安定化】

- ・治山ダムや流路工等の設置
- ・樹木の植栽



崩壊土砂の流失の恐れ

着手前



豪雨等により崩壊した山腹斜面

山腹緑化工

完成

土留工

植栽工

水路工

土石流発生の恐れ

着手前



豪雨等により荒廃した溪流

治山ダム

完成

植栽工

流路工



公共事業新規評価調書(整備系)

部 名	農林水産部	記 入	森林整備課	課 長	永守 直樹
		責任者	佐賀中部農林事務所	所 長	田代 浩幸

事 業 区 分	生活関連 治山事業	事 業 名	地区名等	総事業費	80 百万円
		山地治山事業	あいのうら 相ノ浦地区		
事 業 地			着工予定年度	完成予定年度	
多久市 北多久町 多久原 地内			令和5年度(国補正)	令和7年度	
事 業 目 的			事 業 内 容		
当地区は、令和5年7月の豪雨等により溪岸侵食が進行し、溪流内に不安定土砂が堆積している状況である。 今後の集中豪雨等により土石流等が発生する恐れがあるため溪間工を施工し、災害の未然防止を図る。			溪間工 治山ダム 1個 流路工 L=100m		
評価の視点	評 価 内 容				評 価
(1)位置づけ	「さかの森林・林業ビジョン2023」の「1.多面的機能の発揮(3)防災につながる森づくり」に位置づけられている。(10) 当地区は、令和3年8月及び令和5年7月の集中豪雨により、不安定土石の流出等の状況があり、災害の発生の恐れが高い。(50) 当地区は山地災害危険区域であり、保全人家戸数10戸以上である。(40)				A (100)
(2)必要性・効果	費用対効果は 10.57 である。(60) 令和3年8月及び令和5年7月の豪雨等による土砂流出の災害履歴がある。(10) 溪流の溪床勾配は20%である。(10) 被害想定区域内に公共施設(国道・市道)がある。(10)				A (90)
(3)実施環境	地元からの要望がある。(60) 多久市も事業に向け積極的である。(40)				A (100)

評 価	AAA	条 件 等
判 断	I	
	優先的に事業を実施	

定性評価調書

○自然環境保全

内 容
当該事業の実施により、森林の持つ水源かん養や土砂流出防止機能が維持されるものであり、工法の決定に当たっても、自然環境の保全や負荷の低減に配慮する。 具体的には、資材・重機等の搬入する仮設道にあつては、最小限の切土や盛土にとどめ、原形復旧を行い、植林して森林の再生を行う。

※ 動植物の保護、農地の保全、山地・山間地の保全、水辺環境の保全等に配慮している事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○生活環境対策

内 容
・機械の選定に当たっては、排出ガス対策、低騒音、低振動型の建設機械を使用する。 ・掘削を行う際は、土砂や濁水が施設へ流出しないよう、水替えパイプ等による排水処理を行う。

※ 大気・水・土壌・地盤環境の保全、リサイクル、文化財、バリアフリー、周辺土地利用状況等に配慮する事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○コスト縮減策

内 容
・砕石は再生材を使用し、現地発生材(石材等)が使用可能な場合は、積極的に使用する。

※ 再生材・発生材の使用等、具体的なコスト縮減策を記載。

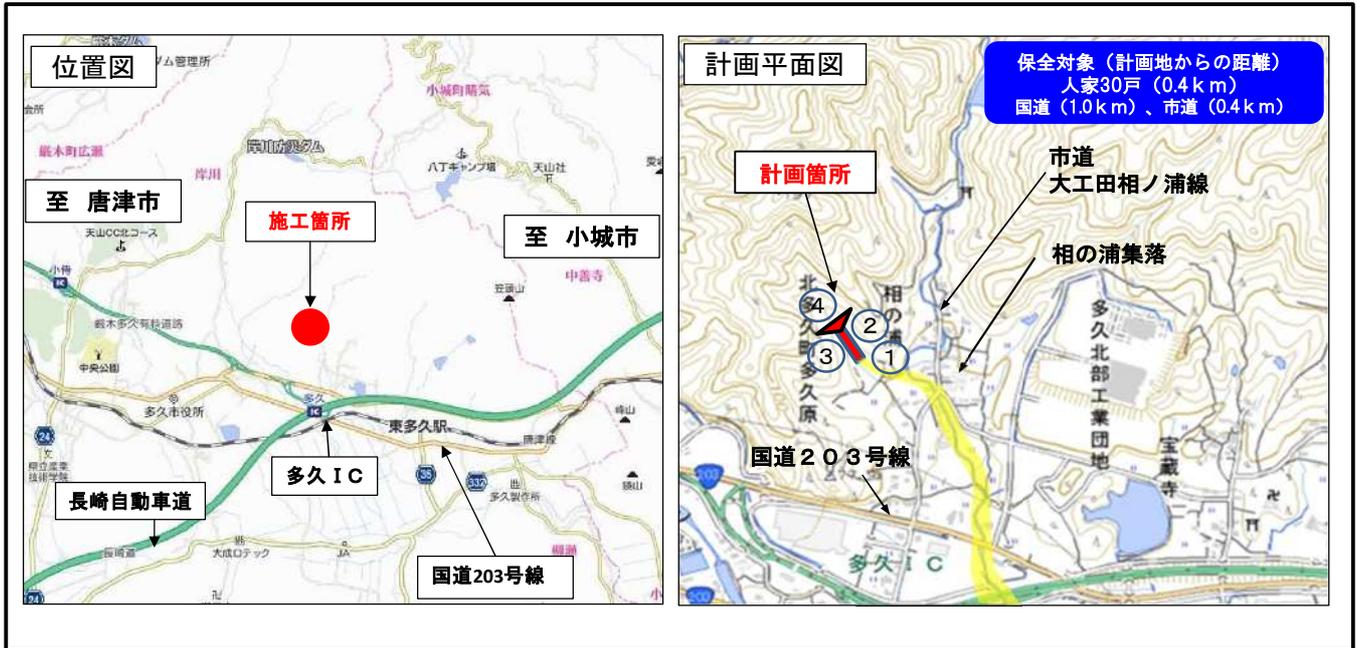
○その他

内 容
・特になし

※ 特に記述することがあれば記載。

治山事業 ^{あいのうら} 相ノ浦地区 (^{たくばる} 多久市北多久町多久原地内)

施工箇所: 多久インターから北に約 1.2 km 付近



1

^{あいのうら} 相ノ浦地区 (^{たくばる} 多久市北多久町多久原地内)

整備の必要性: 当地区は、これまでの豪雨で溪岸侵食が進行しており、溪流内の不安定土石が流出し下流に堆積していることから、**今後の豪雨等により土石流が発生する恐れ**がある。このため、溪間工（治山ダム）及び流路工を実施し、災害の未然防止を図る。

① 流末箇所土石堆積状況



② 溪岸侵食状況



④ 不安定土石堆砂状況



③ 治山ダム計画位置



【事業概要】 工期: R5~7 総事業費: 80百万円
 保全対象: 人家30戸、市道大工田相ノ浦線(0.3km)、国道203号(0.2km)
 整備内容: 溪間工(治山ダム1個、流路工100m)

2

公共事業新規評価調書（整備系）

本部名	農林水産部	記入	森林整備課	課長	永守 直樹
部名		責任者	伊万里農林事務所	所長	藤 邦広

事業区分	生活関連	事業名	地区名等	総事業費	65百万円
	治山事業	山地治山事業	たつかわ 立川地区		
事業地			着工予定年度	完成予定年度	
伊万里市 大川町 立川			令和5年度(国補正)	令和7年度	
事業目的			事業内容		
<p>当地区は、豪雨等により溪岸侵食が進行し、溪流内に不安定土石が堆積している状況である。</p> <p>今後の集中豪雨等により土石流等が発生する恐れがあるため溪間工を施工し、災害の未然防止を図る。</p>			<p>溪間工</p> <p>治山ダム 1個</p>		
評価の視点	評価内容				評価
(1) 位置づけ	<p>「さかの森林・林業ビジョン 2023」の「1.多面的機能の発揮(3)防災につながる森づくり」に位置づけられている。(10)</p> <p>不安定土石の堆積等があり、経年変化による災害発生の恐れがある。(30)</p> <p>当地区は山地災害危険区域であり、保全人家戸数10戸以上(40)</p>				A (80)
(2) 必要性・効果	<p>費用対効果は9.98である。(60)</p> <p>過去に土砂流出の災害履歴がある。(10)</p> <p>溪流の溪床勾配は10%~30%である。(10)</p> <p>被害想定区域内に公共施設(市道)がある。(10)</p>				A (90)
(3) 実施環境	<p>地元からの要望があり、必要書類等も取得済みである。(60)</p> <p>伊万里市も事業に向け協力的であり、山地災害危険地区の地域住民への周知を確認できる。(20)</p>				A (80)

評価	AAA	条件等
判断	I	
	優先的に事業を実施	

定性評価調書

○自然環境保全

内 容
当該事業の実施により、土砂流出防止機能及び公益的機能の高度発揮が期待できるものであり、工法の決定にあたっては、自然環境の保全や負荷の低減に配慮する。 具体的には、資材・重機等の搬入する仮設道にあつては、最小限の切土や盛土にとどめ、原形復旧を行い、植林して森林の再生を行う。

※ 動植物の保護、農地の保全、山地・山間地の保全、水辺環境の保全等に配慮している事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○生活環境対策

内 容
・機械の選定に当たっては、排出ガス対策、低騒音、低振動型の建設機械を使用する。 ・掘削を行う際は、土砂や濁水が施設へ流出しないよう、水替えパイプ等による排水処理を行う。

※ 大気・水・土壌・地盤環境の保全、リサイクル、文化財、バリアフリー、周辺土地利用状況等に配慮する事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○コスト縮減策

内 容
・砕石は再生材を使用し、現地発生材(石材等)が使用可能な場合は、積極的に使用する。

※ 再生材・発生材の使用等、具体的なコスト縮減策を記載。

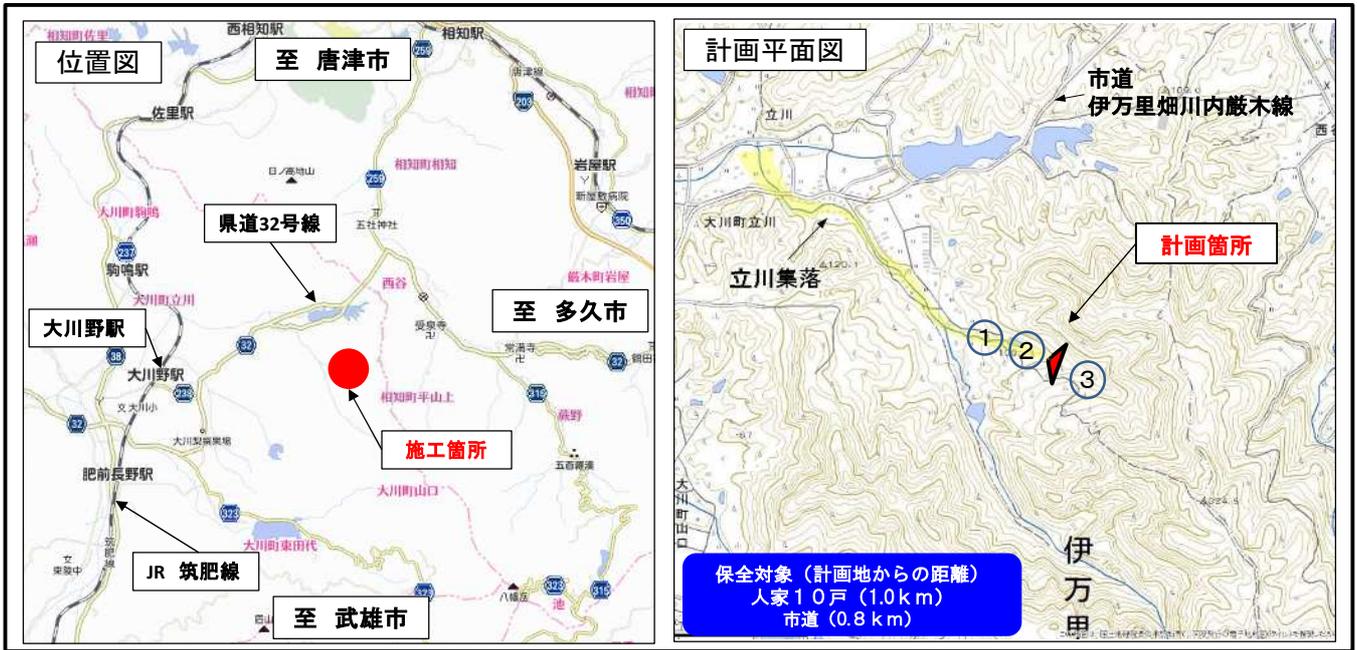
○その他

内 容
・特になし

※ 特に記述することがあれば記載。

治山事業 ^{たつかわ}立川地区（伊万里市大川町立川地内）

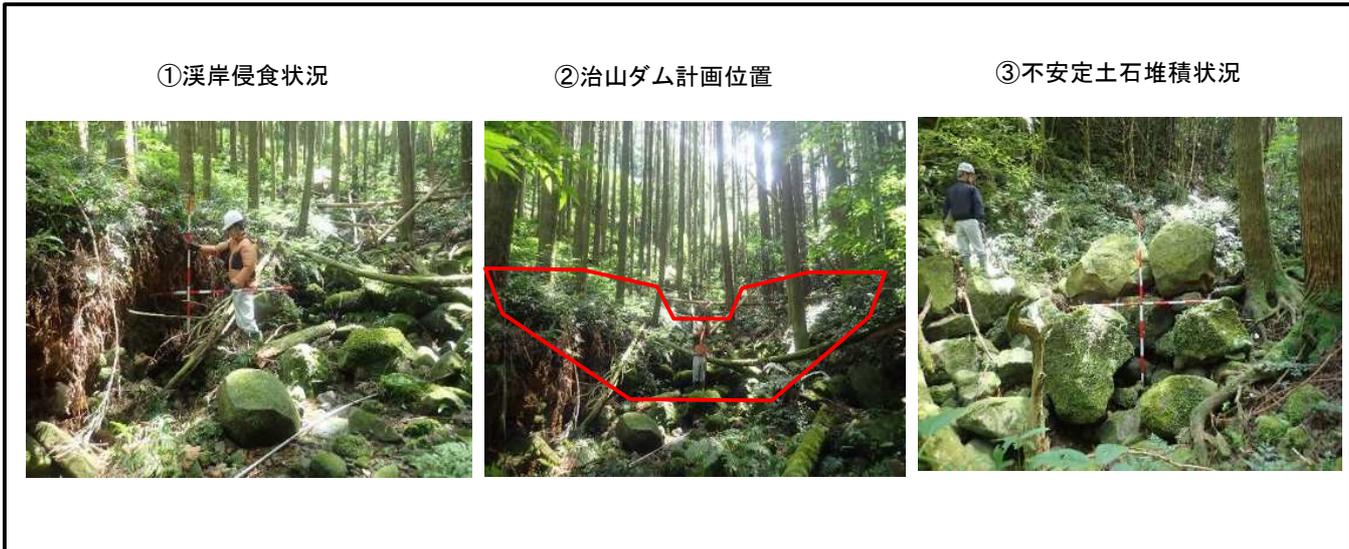
施工箇所:大川野駅から東に約 3.0 km付近



3

たつかわ
立川地区(伊万里市大川町立川地内)

整備の必要性: 当地区は、これまでの豪雨で溪岸侵食が進行しており、溪流内の不安定土石が流出し下流に堆積していることから、**今後の豪雨等により土石流が発生する恐れ**がある。このため、溪間工（治山ダム）を実施し、災害の未然防止を図る。



【事業概要】工期:R5~7 総事業費:65百万円
 保全対象:人家10戸、市道伊万里畑川内蔵木線(0.8km)
 整備内容:溪間工(治山ダム1個)

4

公共事業新規評価調書（整備系）

本部名	農林水産部	記入	森林整備課	課長	永守 直樹
部名		責任者	伊万里農林事務所	所長	藤 邦広

事業区分	生活関連	事業名	地区名等	総事業費	69百万円
	治山事業	山地治山事業	ながはら 長原地区		
事業地			着工予定年度	完成予定年度	
伊万里市 大川町 山口			令和5年度(国補正)	令和7年度	
事業目的			事業内容		
当地区は、これまでの豪雨等の影響により既設治山ダム(S51年施工)が満砂しており、豪雨の都度、溪流内の不安定土砂が流出している。今後の集中豪雨により、土石流が発生する恐れがあることから、既設治山ダムの嵩上げを行い、災害の未然防止を図る。			溪間工 既設治山ダム嵩上 1個 流路工 L=65m		
評価の視点	評価内容				評価
(1) 位置づけ	「さかの森林・林業ビジョン2023」の「1.多面的機能の発揮(3)防災につながる森づくり」に位置づけられている。(10) 不安定土石の堆積等があり、経年変化による災害発生の恐れがある。(30) 当地区は山地災害危険区域であり、保全人家戸数10戸以上(40)				A (80)
(2) 必要性・効果	費用対効果は11.57である。(60) 過去に土砂流出の災害履歴がある。(10) 溪流の溪床勾配は10%~30%である。(10) 被害想定区域内に公共施設(県道・市道)がある。(10)				A (90)
(3) 実施環境	地元からの要望があり、必要書類等も取得済みである。(60) 伊万里市も事業に向け協力的であり、山地災害危険地区の地域住民への周知を確認できる。(20)				A (80)

評価	AAA	条件等
判断	I	
	優先的に事業を実施	

定性評価調書

○自然環境保全

内 容
当該事業の実施により、土砂流出防止機能及び公益的機能の高度発揮が期待できるものであり、工法の決定にあたっては、自然環境の保全や負荷の低減に配慮する。 具体的には、資材・重機等の搬入する仮設道にあつては、最小限の切土や盛土にとどめ、原形復旧を行い、植林して森林の再生を行う。

※ 動植物の保護、農地の保全、山地・山間地の保全、水辺環境の保全等に配慮している事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○生活環境対策

内 容
・機械の選定に当たっては、排出ガス対策、低騒音、低振動型の建設機械を使用する。 ・掘削を行う際は、土砂や濁水が施設へ流出しないよう、水替えパイプ等による排水処理を行う。

※ 大気・水・土壌・地盤環境の保全、リサイクル、文化財、バリアフリー、周辺土地利用状況等に配慮する事項について、工法、対策、留意事項を記載。

○コスト縮減策

内 容
・砕石は再生材を使用し、現地発生材(石材等)が使用可能な場合は、積極的に使用する。

※ 再生材・発生材の使用等、具体的なコスト縮減策を記載。

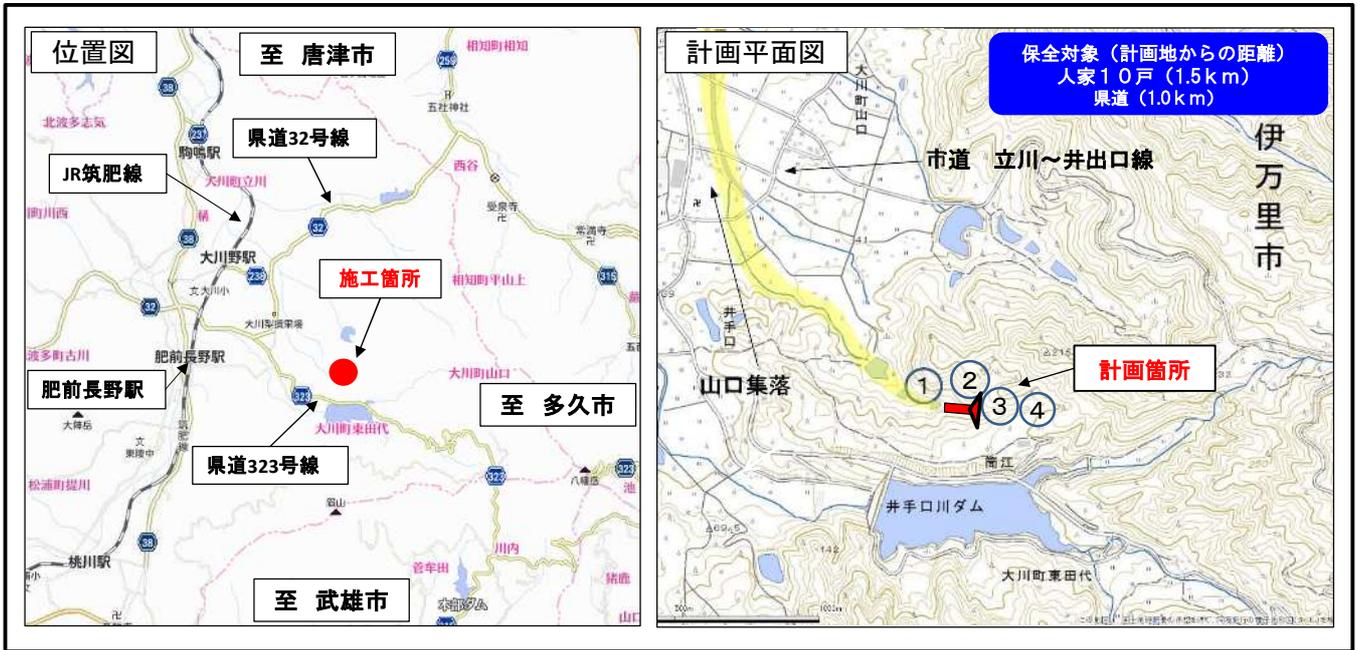
○その他

内 容
・特になし

※ 特に記述することがあれば記載。

ながはら
治山事業 長原地区（伊万里市大川町山口地内）

施工箇所：肥前長野駅から東に約 2.5 km 付近



5

ながはら
長原地区（伊万里市大川町山口地内）

整備の必要性：当地区は、昭和 51 年の災害により治山ダムを設置した箇所であるが、これまでの豪雨等の影響により、既設ダムが満砂し、豪雨の都度、溪流内の不安定土砂が、下流域のため池に流入している状況である。今後の集中豪雨等により土石流が発生する恐れがあるため、既設治山ダムの嵩上を実施し災害の未然防止を図る。



【事業概要】工期：R5～7 総事業費：69百万円
 保全対象：人家10戸、市道立川～井出口線(2.0km)
 整備内容：溪間工(既設治山ダム嵩上1個、流路工65m)

6